

今日のみことば

□ 1月22日(日) ヨハネ 21章

弟子たちは漁に出たとき、再びイエスに出会った。そこでイエスはペテロに指導者として地位を回復し、ご自分のことを他の人々に宣べ伝えるようにと言われた。

□ 1月23日(月) 使徒言行録 1章

使徒言行録はルカ福音書の続編で、イエスの昇天後、この働きが使徒たちのうちに働く聖霊の力によって引き継がれたことを語ります。

□ 1月24日(火) 使徒言行録 2章

エルサレムにおいて、五旬節の日に、聖霊が弟子たちのの上から下られた。ペテロは三千人もの人に説教をし、彼らはイエスを約束されたメシヤと信じた。

□ 1月25日(水) 使徒言行録 3章

イエスの宣教活動と同様に、いやしと教えとが神の御霊の働きによってなされた。ここにキリストの教会は誕生した。教えは、常に復活のキリストが中心であった。

□ 1月26日(木) 使徒言行録 4章

ペテロの説教はさえぎられ、逮捕された。しかしそんなことで聖霊の御業は妨げられなかった。ペテロとヨハネは、み言葉を語り続けた。

□ 1月27日(金) 使徒言行録 5章

議会はペテロとヨハネを牢屋に入れた。神のみ使いが彼らを牢から解き放って自由にした。脅しも、投獄も、むちさえも神のみ力は食い止められなかった。聖霊の力によって語り続けた

□ 1月28日(土) 使徒言行録 6章

教会は「御霊と知恵と満ちた」七人を選び教会の仕事を分担し任せた。その一人ステパノは、多くの奇跡をなし、イエスについて宣べ伝えた。

ろ ぼ No. 1799
2017年 1月22日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

エペソ6:14

立って真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け。

私たちが今日の時代を生き抜く力を、どのように維持していくことができるか。「正義」とは何かを、当たり前の間いかけをしなければならぬ時代に私たちは生きていることを思い知らされています。パウロがエペソの教会の人たちが対峙していることは、「血肉を相手にするものではなく・・天に在る悪の諸霊を相手にするものなのです」と言いましたが、私は今日私たちが対峙している問題の相手もまた、同様であろうと思わずにはおれない、時代の流れに導かれているのではありませんか。今私たちは確実に、私たちが願ってはいない方向に導かれてはいませんか。パウロが「善をなそうと思ふ自分には、いつも悪が付きまとい」という法則に気づきま

すが、わたしの五体にはもう一つの法則があつて心の法則と戦い、わたしを、五体のうちにある罪の法則のとりこにしているのが分かります。わたしはなんと惨めな人間なのでしょう(マ7:21-24)と言った言葉を思い起こさせていただくのです。確かに私たちは敵と戦うとき、確かな武具を身につけなければ勝利には結びつきません。この世の戦いでなく、悪の諸霊との戦いにおいてパウロは「正義の胸当て」を着けよと言いました。今日は「正義」とは何かを問われる時代なのです。この問題は短時間で語り尽くせるものではありません。けれども私は知っておかなければならないことがあると思っています。「義」は神

のものであるということです。思い起こしていただければ分かりますが、正義が叫ばれているところで、自分の利を求めているものを見出すのは難しいです。パウロはこの世の諸悪との戦いに苦悩しているエペソの教会の人たちを、鼓舞するこの言葉は、現実の苦闘に対する助言なんです。

パウロは「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうかわたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたしますこのように、わたし自身は心では神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。」と言いました。確かにこの問題と向き合うとき、「主に依り頼み、その偉大な力によって強く」される以外に、道を見出すことはできないのです。これは現実の問題です。

第16代米国大統領となり奴隷解放を宣言した実行派のリンカーンが若いころ、ケンタッキーの山奥で木こり生活をしていたとき、貧しかった彼は、読むべき本を手に入れることができませんでした。「天路歷程」と「聖書」が唯一の愛読書であったと言います。この書からの影響は大きく、リンカーンの精神は神の正義によって鍛えられ、養われて行きました。

これは決して些細なことではありません。私はこの現代を生き抜くには「正義を胸当て」として、ぶつかってくる様々な事態に対処できる対策を私たちはとることは、私たちの最も大きな武具であることを知るべきです。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか」(ロマ8:31)です。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

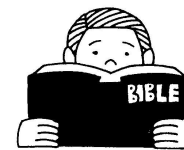
詩篇102 個人の祈りの方法

私たちがどのように祈ったらよいか、お教をを請う私たちに教えられる詩篇です。「心挫けて、主の御前に思いを注ぎ出す貧しい人の詩」たる祈りを教えていただきます。

これは、悩める魂の悲痛な祈りです。彼の敵は終日彼をそしり苦しめた。彼はその目を、神に向けることによって、大きな慰めを得ました。詩人は嘆きの叫びから、確信ある信仰の喜びへと移される。神は確かに祈りを聞いて下さる。神は永確かに主権者であられる。

私たちの祈りは、この詩篇を通してもしっかりと示されるように、主に対する崇敬の念をもって祈られるべきものであるということです。そして自らをしっかりとわきまえ、罪の告白と主への感謝が述べられるのでしょ。

忘れてはならないこと。この世には悩みがある。しかし、キリストはすでに世に勝っている、ということです。



Read God's Word.